

29TG-am03

糸状菌 FKI-3573 株の生産する抗トリパノソーマ原虫活性物質に関する研究

○橋田 純子¹, 岩月 正人¹, 森 美穂子^{1,2}, 新妻 恵¹, 宇井 英明^{1,2}, 塩見 和朗^{1,2},
野中 健一¹, 増間 碌郎^{1,2}, 石山 亜紀¹, 生田目 幸¹, 塚島 明希¹, 乙黒 一彦¹,
山田 陽城^{1,2}, 大村 智¹(¹北里大生命研, ²北里大院感染制御)

【目的】アフリカトリパノソーマ症 (睡眠病) は、トリパノソーマ原虫によって引き起こされる人畜共通の感染症であり、適切な治療が行われなければ昏睡状態から死に至る重篤な熱帯病である。現在用いられている治療薬には強い副作用など多くの問題があり新たな治療薬の開発が求められているが、採算の取れる市場性に欠けるため研究開発の対象から取り残されている。このような背景の下、微生物代謝産物から抗トリパノソーマ薬の探索を行った。

【方法および結果】北里生命科学研究所熱帯病評価センター (DNDi の日本における研究拠点) でスクリーニングが行われた結果、糸状菌 FKI-3573 株が選択された。*Paecilomyces* 属と同定された FKI-3573 株からは pyrenocine A, B およびその新規類縁体一成分を単離した。それら 3 成分の抗トリパノソーマ活性 (IC_{50}) はそれぞれ 0.12, 1.09 および 8.11 $\mu\text{g/ml}$ であった。これらの化合物による抗トリパノソーマ活性は報告されておらず新規の知見であった。